

「オーウ伊八か、敷居越では話が出来ぬ、ズット此所へ参れ」

「ヘイ〜」

「當家へ泊つた節、其の方に金一步遣はしたナ」

「有難うさんで、頂戴致しまして御座ります」

「金一步遣はしたのは餘の儀でない、夜前は泉州岸和田岡部美濃守の御領分、浪花屋と申す間狭なる宿へ泊り、有象無象も一緒に寝かし居つた、順禮が詠歌を唱へるやら、六部が念佛を上げるやら、相撲取りが齒切を咬むやら、驅落者が夜通しいちや〜申して一目も寝かし居らん、今宵はどの様な間でもよいから閑靜なる間へ泊てくれと申したに、隣の部屋は何事だ、ヤレコラドツコイの散財が始まつた、某は國元へ手紙を出さんと筆を取つた處が、身體がビヨンビヨン動いて書く事が出来ぬ、是れを見よ此の手紙が眞黒になつた、先方の座敷を替るか、拙者の間を取り替るか、靜に致しくれるか、三ツに一ツの返答を致してくれ」

「ヘイ、誠に相濟まん事で、ツヒ御酒が盛で居りますので、どうぞ暫くお待ちを願ひます」

隣の座敷へ参りますと益々エライ勢ひ、

「ほんにこら堪らん、ヘイ御免を」

「オ、伊八どんか、一ツどうや、お前も踊りんか」

「モシお靜にお頼み申します」

「ナニ靜に……靜に、オイ此處の宿屋は藝妓を呼んで散財が出来んのか、とうなみ不自由な宿屋やな」

「イ、エ私の方は構ひまへんが、そう騒いでいたゞきますと他のお客さんが寝まされまへんので、どうぞ靜に願ひ致します」

「イヤ何かへ、俺の部屋で騒いで居ると他の奴が寝られんので靜にせぬと吐すのか、何奴がそんな生意氣な事を吐すねん、此方で散財するのがむかつくのんやろ、其方も負ん様に藝妓を呼んで散財をせい、そんなに喧しいのが氣に入らんのなら宿屋を買切つて置け、愚圖〜吐したら此所へ引張つて來い生意氣な、相手に仕てやるさかい引張つて來い……」

「甚い勢ひだすな、引張つて來ん事は御座りまへんが相手が悪う御座ります」

「相手が悪いと云ふても日本人やろ」

「それは日本人に違ひはおまへんが、二本差しで……」

「二本差しして田樂か」

「ウダ〜おつしやるな、お侍で」

「エツ……侍か、アノお侍か……」

「急に勢が變りましたな」